くみあいNEWS
第１５２１１号
2020年2月21日(金)
発行責任者
日本製鉄和歌山労働組合
組織教宣部
WAKAYAMA WORKERS' UNION
組合ＨＰ：http://nssmwu.jp/　　代表内線番号　和歌山地区(本部)(54)－3590
堺地区　652990／海南地区(54)－5555

２０２０年２月２１日開催
箇所臨時経営委員会・労使協議会資料

和歌山製鉄所における生産設備構造対策の実施について

(組　合)

去る２月７日の臨時経営委員会・労使協議会において、会社より「生産設備構造対策と経営ソフト刷新施策の実施について」の補足説明を受け、後日あらためて話し合いの場を持つとしていた。

組合は、会社の説明を受けた直後から今日にかけて、和歌山製鉄所における休止対象設備に関わる支部を中心とした職場動向の把握に努めてきたところである。本日は、**職場の意見等を踏まえたうえで、今次施策内容の理解を図る観点から、以下数点について会社見解を質す**こととする。

１．今次施策による休止設備への対応について

先般、会社より説明・提案された施策の内、**和歌山製鉄所第１高炉（第４・第５コークス炉、第５－１焼結機、第３連続鋳造機の一部設備含む）の休止については、１・２高炉体制を確立してから１年足らずであったことから、当該職場で働く組合員とそのご家族はもとより構内で働く多くの方々に大きな不安が生じている。**

組合としては、日本製鉄の取巻く環境が極めて厳しい中、会社が徹底的な固定費削減により競争力を更に高めていくことについては理解するものの、**休止する設備については、先を見据えた様々な増強・老朽化対策が計画・実施されていただけに、各職場のモチベーション低下は計り知れない。**これらの状況を踏まえ、今次施策のより一層の解明を図る観点から、**当該設備を休止する判断に至った検討経緯および将来を見据えた競争力の強化に向けた取組みについて今少し詳しく聞きたい。**加えて、**休止設備に対し、現在進められている増強・老朽化対策の計画変更等の有無について聞きたい。**

(会　社)

当所にかかる今次生産設備構造対策について、公表後の組合員の反響については会社としても真摯に受け止めているところである。こうした中であるが故に、組合員並びに従業員の皆さん一人ひとりに**今次施策の考え方、および当所の方向性について深くご理解頂きたいと切に思っている。**その上で、この大きな変革期を労・使が一致団結し、乗り越えていきたいと考えている。よって、本日は今次施策の背景や考え方について改めて申し述べさせて頂きたい。

当所の生産構成は、外販スラブを中心とする半製品が約半分を占め、生産能力面では、熱間処理能力に対し鉄源能力が大きく上回っており、その余剰鉄源については付加価値の低い鋼片の外販等で活用しているのが実態である。

また、外販鋼片については、かつては海外マーケットにおいても一定の競争力を有していたが、足元、中国等で新鋭ミルが続々と立ち上がるなかで競争が激化し、以前のようなマージンを確保することが困難であり数量も減少している状況にある。

こうした中、高付加価値品を一貫して効率よく製造する最適生産体制を目指すとの基本的な考え方に照らし合わせ、第１高炉は稼働期間が約１０年半と短いものの、一貫生産・出荷能力の観点、および適正な鉄源と熱間処理のバランスを実現するために今次施策を判断した次第である。

今次施策は製鉄所のシンボルである高炉、および関連設備の休止を実行するものである。それでも尚、当所は、鋼管・形鋼・薄板の中でも特に高付加価値商品を生産し続ける、筋肉質かつ社の収益に貢献する銑鋼一貫製鉄所を目指していく。

また、当所の方向性として、鋼管においては関西製鉄所発足に伴う尼崎製造所とのシナジー効果追求、および当社優位性の更なる進展施策を推進していく。形鋼においては、国内土木建築需要が構造的に縮小していく中、堅固な事業構造の構築、および新たなマーケットの創出に資する方策を引き続き講じていく。薄板についても、商品総合力（コスト、品質、デリバリー、顧客対応等）の高度化により競争力を更に高めていくこととし、各品種ともに必要に応じた設備投資を講じていく考えである。

将来に亘り、筋肉質な製鉄所とすべく経営資源を集中し、強固な収益基盤を構築すべく強い覚悟をもって完遂したいと考えている。

尚、休止時期については現在、２０２２年度上期を目途に検討しているところであるが、具体的な休止時期については、現時点では全ての休止対象設備が確定してはいないことから、確定し次第、組合ならびに職場へ説明する考えである。また、休止設備に対する増強・老朽化対策等については老朽更新投資、設備保全計画の見直しおよびミニマム化についても検討しているところである。

組合ならびに従業員の皆さんにおかれては、それぞれの持ち場・立場で今次施策の位置づけとその狙いを十分に理解頂き、やるべきことを確実に実践し、全面的にご協力いただくようお願いする次第である。

（組　合）

２．人員措置にあたっての具体的な対応について

会社は、人員措置にあたって「今次施策に伴う人員措置については、日本製鉄グループ全体として雇用の場を確保する」旨を示したが、当該職場で働く方々は、職場が無くなることに対し、「設備休止後に働く場所があるのか」「希望退職は募るのか」等の不安な思いを抱えながら、今この時も求められる役割・責任を果たしているところである。

組合としては、グループ全体ではなく、配置転換される方々の負担や影響を最小限にすることはもちろん、これまで培ってきたあらゆる経験等を活かすべく「直営社員として現在の和歌山・海南地区で配転措置すべき」と考える。会社の人員措置にあたっての再雇用者を含めた具体的な考え方等について詳しく聞きたい。

また、会社は設備休止までの間、当該職場の安全確保はもとよりモチベーションの維持・向上をどのように図るのか聞きたい。

（会 社）

組合より、今次施策における人員措置について質された。

まず、今次施策を実行する上で、思い入れのある設備の休止にあたっては、そこで働く仲間の心情を慮り、十分に理解するとともに、慣れ親しんできた職場の変更を余儀なくされると

いう苦渋に満ちた決断を迫られる多くの仲間がいることを重く受け止めていく必要があると胸に刻む次第であり、**現在も尚、それぞれの持ち場・立場において、その責務を果たされ、安全かつ安定操業を継続頂いていることに対し大変ありがたく、そして敬意を表する**次第である。

今次施策に伴う人員措置については、**会社として日本製鉄グループ全体として雇用の場を確保する考えであると申し述べてきたが、組合として、「現在の和歌山・海南地区で配置転換すべき」との考えについては会社として心にとめる**ところであり、当所で技術・技能・経験を培ってこられた仲間は今次施策が完遂しても尚、将来に亘り、**一人ひとりが当所における「競争力の源泉」であると強く認識している。**

このような中、**会社としては希望退職等を募ることは考えておらず、再雇用者を含めた人員措置について「関西製鉄所における和歌山地区内での配置転換を優先」**とし、中長期にわたる所内・全社における要人員バランス等もふまえ、**個々人の事情等を十分に斟酌した上で検討を重ねていく**所存である。

また、**設備休止までの間は、安全最優先での安定操業を継続していくことが重要なことから必要な修繕費や人をはじめとした経営資源の投入は行っていく**ことに加えて、**管理者による日常対話の充実を図る等、会社として丁寧な対応を実施する**ことにより、不安に感じている方々に対し、モチベーションを維持頂けるよう努めていく考えである。

尚、**人員措置にあたってのスケジュールについては、休止時期が具体化した後、現在の職場、および新たな職場で円滑に業務遂行ができるよう検討を進めて行く**考えであり、今後、各職場の要人員事情等を踏まえた上で、個人面談等を通じ対象となる方々の諸事情をきめ細かく把握しつつ、慎重に検討していく所存である。

(組　合)

３．関係協力会社への影響について

今次施策は、直営のみならず関係協力会社においても大きな影響が出るものと懸念しているところである。会社は、**各関係協力会社に対し、今後どのような人員措置のフォローを行うのか**聞いておきたい。

(会 社)

関係協力会社への影響については今後、付帯作業、および二次請け・三次請け企業への影響度も確認していく次第である。各社に対する理解活動としては、２月７日の公表以降、すでに対話・協議を開始させて頂いているところである。

会社として、**関係協力会社の雇用問題については、個別に真摯かつ丁寧な対話・協議を行い、誠意をもって可能な限りの協力・支援を行っていきたい**と考えている。

引き続き、組合とも密に情報共有をさせて頂く次第である。

(組　合)

本日は、職場の意見等も踏まえ、本施策内容の理解を図る観点から会社見解を質したところである。

組合としては、引き続き各支部と連携を図りながら職場動向の把握に努め、後日、改めて話し合いの場を持つこととする。

以　上